新たなめん山羊の改良増殖目標の主な変更点（案）

資料10

現行目標（H32年度）	課題、方向性	新たな目標（H37年度）
・高い放牧適性を活かした耕作放棄地の有効活用や景観保全への活用 ・小型で扱いやすい特性を活かしたふれあい、地域特産品づくり等の多様な利活用	・めん山羊は、里山保全等を目的とした放牧利用、ふれあい等の多様な利活用のニーズはあるものの、地域に飼養管理技術を持つ者がいない ・生産協議会等において情報交換は行われているものの、種畜の供給体制づくりにまでは至っていない	・めん山羊の多様な利活用に関する情報収集と、その情報を基にしためん山羊の供給体制づくりの推進 ・客観的な能力評価手法の活用と改良への応用

定性的な目標

現行目標（H32年度）

1　能力

（１）繁殖能力

受胎率、産子数、ほ育能力等の向上に努める。

（２）産肉能力

肉用にあっては、発育性、増体性及び枝肉歩留まりの向上に努める。

（３）泌乳能力

山羊（乳用）にあっては、乳量の向上に努める。

2　体型

・強健で肢蹄が強く、体積に富み、体各部の均称がとれたものとする。

・山羊（乳用）にあっては、乳器に優れ、搾乳が容易な体型とする。

新たな目標（H37年度）

1　能力

（１）繁殖能力

受胎率、ほ育能力等の向上に努める。

（２）産肉能力

肉用にあっては、発育性、増体性及び枝肉歩留まりの向上に努める。

（３）泌乳能力

山羊（乳用）にあっては、乳量の向上に努めるとともに、乳成分の維持・向上に努める。

2　体型

・強健で肢蹄が強く、肉用にあっては体積に富み、後躯が充実したものとする

・山羊（乳用）にあっては、乳器に優れ、搾乳が容易な体型とする。

3　その他

・客観的な能力評価手法の活用と改良への応用を推進。

・多様な利活用に関する情報の収集・共有を図るとともに、利用目的に応じた優良なめん山羊の供給体制づくりを推進。

定量的な目標

現行目標（H32年度）

【めん羊】

４ヶ月齢時体重：　雄 41 → 43kg

雌 34 → 39kg

１腹当たり離乳頭数：　1.4 → 1.5頭

【山羊】

250日換算乳量：433 → 600kg

新たな目標（H37年度）

【めん羊】

・90日齢時体重については、現状の１割増の水準で設定。

（肉用のめん羊の客観的な能力評価のため、母羊の年齢、産子数で補正した子羊の90日齢時体重を目標数値として設定。（国内で約半数を占めるサフォーク種の離乳は一般的に約３ヶ月齢時。）

・１腹当たり離乳頭数については、現行の目標水準を維持。

【山羊】　現行の目標水準を維持。

（乳用の山羊の客観的な能力評価のため、産次、分娩後日数、１日当たり乳量を基に、250日換算乳量を推定した数値を目標数値として設定。）